

## もう師走ですね！

気が付けばもう12月で今年も残すところあとわずかとなりました。朝晩の冷え込みが日に日に増してきて体調を維持していくのにも大変ですが、終り良ければ何とやらと言うように体あつての仕事ですのでみなさんも十分に健康管理には気を配って頂き残る2004年を無事に終える事が出来るようにしていきましょう。

さて、今年には世間では様々な事象が起きました。アテネオリンピックでは世界中が熱狂し、日本では異常気象や地震で各地で災害が起きたりと、また空前の韓国ブームで日本中のご婦人達の話題を独占するなど、色々ありました。「うちのかいしゃ」でも今年を振り返ってみようと思います。そして来年への期待を述べたいと思います。

### ・八王子市自転車整理・保管業務

この業務は、日常的にクレームを処理して行かなければならないもので、多少の役所からの呼び出しは致し方ない所でしょうか。盗難にあったり、刃物を見てしまったり、言い掛かりをつけられたり、侮辱発言されたり今年も色々ありました。これにめげずに来年もがんばりましょう。

### ・撤去・運搬・駐輪場監視業務

この業務は、何はともあれ“交通安全”が一番大切です。車は「うちのかいしゃ」にとって財産であり、業務上無くてはならないものです。事故を起こさない事は勿論のことですが、始業前後の点検整備、洗車等も引き続きお願いします。

### ・北区自転車撤去・保管業務

この業務は、3年目に入り仕事の面では、役所の信頼も厚くなり、良い事なのか悪い事なのか別にして任される事が多くなりました。来年は益々入札・契約等の情勢が厳しくなる事が予想されますので、より一掃のみなさんの協力(改革)が必要となりますので、健康管理だけは怠らないようにしていきましょう。

### ・狛江市自転車監視業務

この業務は、他の業務と違い歩いて移動することが少なくまた、冬場は特に寒さが身に伝わる現場です。役所が目前で気を使う事があるかと思いますが、来年も少数精鋭で乗り切っていくでしょう。

### ・世田谷区・八王子市・学校巡回パトロール業務

この業務は、現在の流行とまで行きませんが、住民サービスの一環で行政の需要も多い業務です。こちらも“安全第一”をスローガンにして毎日24時間営業中です。特に年末年始は人の往来も激しくなりますので、注意していきましょう。

### ・特掃・日常・ミニメイド清掃業務

この業務は、「うちのかいしゃ」の原点を占めているもので、無くてはならないものです。日常清掃は人の出入りはあるものの、会社としては信頼しきって行ってもらっていて大変助かっています。ミニメイドもお客様の信頼だけが頼りですので、来年はそういうお客様を少しでも増やして行けるようにしましょう。特掃は技術もさる事ながら、積極的な行動で清掃全体のレベルがアップするようにしていきましょう。

\* 今月26日をもちまして八王子市で行って来ました「公園防犯パトロール」が終了します。最初は戸惑った事も多かったと思いますが、何とかみなさんの力でここまで無事に業務を行ってこれました。残りわずかですが、最後まで気を抜かずに進めていきましょう。

## 〈お掃除プチレシピ〉

台所編：・油汚れの物(換気扇や魚焼き器など)はまず、シンク内に熱めのお湯をため、洗濯用洗剤を入れて溶かす。(計量スプーン2杯位)

- ・ その中に汚れ物をつけ込む。
- ・ 5～10分位してナイロンたわし、ブラシ等で擦り、洗い流す。
- ・ その他の油汚れは洗濯用洗剤を溶かした液を使って落とせます。
- ・ シンク内のステンレス製の物(所)には、重曹を使うと良いです。重曹を振りまいてスポンジ等で擦るときれいに汚れが落ちます。

今回の情報はミニメイドの作業より提供してもらいました。年末のお掃除の機会に是非試してみてください。それでも落ちなくてお困りの方は有料でご相談のります！？お問い合わせください。

“コーヒーブレイク!”

今回は「子犬と男の子」の感動話をお送り致します。あるペットショップの店頭で、「子犬セール中」の札が掲げられていました。やがてその店に、ひとりの男の子が入ってきました。

「おじさん、子犬っていくらするの?」「そうだな、1万から2万ってところだね。」男の子は、ポケットから小銭を取り出して言いました。「ぼく、800円しか持っていないんだ。でも、見せてくれる?」

店のオーナーは思わず微笑むと、奥に向かってピーと口笛を吹きました。すると毛がフカフカで丸々と太った子犬が5匹、店員の後ろを転がるように出てきたのです。ところが1匹だけ、足を引きずりながら一生懸命ついてくる子犬がいるのです。「あの子犬はどうしたの?」と男の子は聞きました。「獣医さんに診てもらったら、生まれつき足が悪くて、多分一生治らないって言われたんだよ。」と店のオーナーは答えました。ところがそれを聞いた男の子の顔が輝き始めたのです。

「僕、この子犬がいい。この子犬をちょうだい!」

「ぼうや、よしたほうがいいよ。そりゃあ、もしどうしてもこの犬が欲しいというなら、ただであげるよ。どうせ売れるわけないから」と店のオーナーが言うと、男の子は怒ったようににらみつけました。

「ただでなんかいいらないよ。おじさん、この犬のどこが他の犬と違うって言うの。他の犬と同じ値段で買うよ。今、800円払って、残りは毎月100円ずつ払うから。」その言葉を遮る様に、オーナーは言いました。

「だって、この子犬は普通の犬みたいに走ったり、ジャンプしたり出来ないから、ぼうやと一緒に遊べないんだよ。」これを聞くと、男の子は黙ってズボンのすそをまくり上げました。ねじられたように曲がった左足には、大きな金属製のギブスがはめられていました。

男の子は、オーナーを見上げて優しい声で言いました。

「きっとこの子は、自分の気持ちをわかってくれる友達が欲しいと思うんだ。」胸を打たれました。

忙しい時こそ、こんな話を“コーヒーブレイク”に

赤羽のKさんより頂戴しました。